

日本の山旅 2017年8月のお便り

5, 6月の山旅ツアーレポート&下見山行 その1

リピーターの皆さん、相変わらず暑い夏の日が続いていますが、夏ノ暑サニモマケズ、丈夫ナカラダヲモチ、お元気にお過ごしでしょうか。

私は北海道の山旅から7月15日に帰ってきました。5月中国山地の山旅から始まった今年の日本の山旅は、九州の山旅、6月大峰山、玉原ブナ林、鍋倉山、三陸の山旅その1、その2まですべて無事、大成功にて終了、新コースも含めて充実内容、グレードアップの素晴らしい山旅でした。



5, 6月は中国山地その2から三陸その2まで6本のツアーを繋げて約1か月の山旅行脚。今回は新コースや改定コースもあったので、その間の12日間は下見も兼ねて平野ガイド一人で山を歩きまくりました。その成果は本番で如何なく発揮されて、いずれも最高のコース巡りで平野ガイドならではの山旅を完成することができました。以下、5月-7月の山旅レポート。

■西中国山地の山旅・臥龍山と恐羅漢山 5月21日発3日間

1日目の臥龍山はブナ原生林ドライブで9合目近くの雪盥水登山口へ。頂上までの往復はほんの30分で少々物足りない。といて北西のウマゴヤ谷や南西尾根を下るには車の回送が難しい。しかし2年前の下見の際、登山口で地元山の会の長老から、臥龍山のブナ原生林で一番素晴らしいのは、頂上から北西尾根猪木峠方面の北西尾根を下り、分岐から登山口に戻る周遊コースだという貴重な情報を得たのはラッキーだった。1日目午後からのショートコースはこれでベストプランが決定だ。

恐羅漢山は初めてなので、太田町の観光課やネットから情報を集めコースを考えた。ガイドブックには登山口からスキー場コースが最短コースで、殆どの人はそれを利用しているようだ。しかしこのコースはブナ林もなく、味気ないスキー場の草場が殆どで全く魅力なし、ただ頂上行けばよいというつまらないコースに違いない。一方、登山口からセラピーロードと呼ばれるコースから夏焼峠経由で頂上へ至るコースは、2倍ほど時間がかかるが、そのほとんどがブナの自然林で、このほうがはるかに魅力的だ。またガイドブックには載っていないが、ネットや現地案内書の情報によると恐羅漢で一番素晴らしいブナ原生林は、北側の台所原周辺らしい。ここに至るには夏焼峠から尾根コースを登り、台所分岐から北に下り、旧林道を辿って行く。そこから恐羅漢山へは1時間ほどの登りとなり、かなりの遠回りとなる。私はこのコースを登りに使い、ブナ尾根コースで夏焼峠まで下る周遊コースを考えた。これは一般コースの倍以上の時間がかかるが、温井温泉に2連泊して1日たっぷり時間をかけて歩くので、ゆったりとブナを愛でながらゆとりを持って歩けることだろう。同じ山に登るにも、コースの取り方、回り方によってその山の魅力、価値は雲泥の差となるのだ。この臥龍山においても、一般の人でも他ほかのいかなるツアーでも考えつかない平野ガイドならではの歩き方のプランが完成した。

果たして実際の状況はどうであろうか。まだ歩いたことのない臥龍山のこのコースの下見は、ツアー前日の5月20日にすべてを託した。登山口から夏焼峠に至るセラピーロードは、その名の通り、自然林の気持ちの良い山道でまずは一安心。台所分岐からの下りもブナを中心とした自然林が素晴らしく、10分ほどで林道へ。ここからは植林後の面白みのない林道歩きとなり、この先の台所原のブナ原生林は本当に素晴らしいものか少々不安になる。わざわざ長い周遊コースを歩いてそれなりの良さがなければ意味がない。林道歩きを終えて台所原へ向かう山道に入ると、次第に森の雰囲気良くなり、台所原に着くと周辺は期待通りのブナ原生林が広がっていた。そしてここから臥龍山への登りは、これまで以上の濃厚なブナ原生林に包まれ、感動の連続、東北のブナ原生林にもひけをとらぬ第一級の須賀らしいブナの自然道が続いていた。やはりこのコースは大正解、頂上からの下りはブナ巨木も混じる尾根コースで夏焼峠へ。もと来たセラピーロ

ードは行きよりもゆとりを持ってブナ森を味わいながら歩いて、大満足で登山口に戻る。これで今回のツアーのハイライトとなる臥龍山のベスト周遊コースが完成、臥龍山と合わせて中国山地随一のブナ森を巡る素晴らしい新コースとなるに違いない。

今回は3日目に安芸の宮島弥山をプラスしたが、古代の神々が作ったけた外れの巨石遺構の放つパワーを実感することが大きな目的なのだ。最近の宮島は修学旅行や外国人旅行者に加え、パワースポットブームですさまじい数の観光客で溢れている。その上、いくつもある弥山への登山道は観光客用?に過剰整備され、いずれもすべて石畳やコンクリート、階段だらけで、山歩きにとっては最悪の登山道となってしまった。

こうした硬い階段の登山道は、ひざや足に過剰な負担をかけ歩くほどに筋肉疲労は増すばかり。まして足を痛めている人にとっては登りも下りも苦痛の連続となる。そんな山歩きを続けていると、山歩きの楽しさは半減するばかりか、山歩きの寿命を縮めることになるのだ。今回の下見の期間中、この私も冬場のブランクで以前の膝痛がぶり返し、この階段登りでさらに足を痛めてしまった。いつも足痛で山を歩く人や足腰の弱った人の気持ちがつくづくわかった。同時に段差の階段や硬い道がいかに足に悪いか、改めて実感したものだ。

私は弥山の下見で最短コースの紅葉谷コースを下から歩いてみたが、右ひざの具合がいまいちで、階段上り半ばですでに疲れ果ててしまった。これは下から歩いたら皆は頂上に行くまでに疲れてしまう。やはり本番では登りはロープウェイが正解という作戦に変更、あとはひたすら歩くことに専念。やはりロープウェイ終点の獅子岩展望台や弥山頂上は人だらけ。人で埋め尽くされた休憩テラスに立ち寄りず、今回のメインスポット・駒ヶ林へと向かう。ネットで調べたところ、この駒ヶ林の大一枚岩のテラスがランチタイムと昼寝に最高の場所と目をつけていた。

しかしここに至る道も急な階段下りと石畳の道が続き、土の道などほとんどない。それでも駒ヶ林に着くと、そこには予想通りの気持ちの良い一枚岩の大テラスがあった。大混雑の弥山とは違って変わって誰もいない静かな場所で、真正面に弥山の全貌が眺められる一等展望地、弥山周辺で一番価値ある最高の穴場といえるだろう。すでに観光地と化した弥山ではあるが、ここまで足を伸ばせば弥山を歩く価値は十分ある。これで何とかメドはたった。しかしここからの下りを考えると、階段の下り登りで弥山に戻るのは没、唯一大元コースを下るのが一番だろう。

誰もいないはずのテラスにたまたま居合わせた地元風の女性に話を聞くと、大元コースも今では段差の階段の連続でかなり厳しいとのこと。そしてこの頂上から昔の山道が下までついているらしいことを教えてくれた。確かに頂上から海に向かってかすかなフミ跡がある。私はこれを探していた理想の下山路とばかり、旧道らしき登山道を下ってみた。急ではあるが、弥山にある数多くの登山道の中で唯一自然道のコースであった。これでようやく弥山のベストコースが完成、山姥との偶然の出会いに感謝しつつ、フェリーに乗り込み宮島を後にした。

そんなわけで、本番のツアーではすべて最も効率的かつ楽なコース巡りで歩くことができた。ただ、最後の駒ヶ林からの下りが苦手な人がいて、通常の2,3倍ほど時間もかかり、この日が一番疲れたのは想定外だったが。

この西中国山地の山旅は今後もお勧めコースとして継続していく予定だ。特に希望がある場合は弥山も組み入れるが、3日目は広島西部の安蔵寺山に変更する予定です、ブナやミズナラの自然林の中、足に優しい自然道を歩きたいものだ。

■春の九州・九重平治岳と大船山、由布岳 5月28日発4日間

九重山を巡る九州の山旅は、20年以上前から実施してるが、すべて温泉ホテル泊の日帰り登山で、山小屋(法華院山荘)泊は今回が初めて。九重山のミヤマキリシマは平治岳から大船山、黒岳にかけてが一番ということは知っていたし、自分でも30年前に坊がつるで1週間ほどキャンプして、九重連山を歩き回り、その素晴らしさは誰よりも認識していた。しかしそのためには坊がつるの山小屋に1泊せねばならず、また健脚コースとなるのでこれまで敬遠していたのだ。ところが今回はグループの希望があり、法華院山荘も改築され快適な個室も取れるようになったので、新コ

一の実現となった訳だ。このコースは昨年実施の予定が、先の熊本大分大地震のため中止、今年にリベンジグループで実施といういきさつがある。

1日目は大分空港から牧ノ戸峠に直行。久住山、中岳を越えて法華院山荘までという強行スケジュール。1泊2日の縦走なので、不要の荷を2日目のホテルに預け、下山口の長者原に車を回送してもらう最良の作戦で出発。

牧ノ戸峠から杵掛山を越え、九住別れから久住山を往復、さらに最高峰中岳を越えて法華院山荘に至るには、中岳からそのまま白口峠に下り、白口谷を下降するのが最短コースだ。このコースは年々荒れる一方で最近では一般登山者には勧められていない難コースになっているようだ。しかしこれまで何度もこのコースを歩いている私は自信があったし、時間勝負のこの日はこのコースを選ぶほかはない。それに今回は強者揃いの健脚(山姥)グループということもあり、いかにも荒れている白口谷を下る。

白口峠からの下りは、近年の大雨、地震の影響もあり、予想以上に荒れていた。何度もこのコースを歩いている私も、さすがに幾度かルートを誤り、シャクナゲの咲く枯沢に下ってしまい、強引なヤブコギの末、何とか従来のコースに戻り、予定よりも2時間も遅れて法華院山荘に辿り着いた。ともあれ、一番大変な初日は何とか予定通り、快適な山小屋個室と新装された温泉で山旅の疲れを癒す。

翌朝、ミヤマキリシマの平治岳を目指す。山腹を埋め尽くすはずのピンク色は見当たらない。どうやら今年は花の時期が遅れているようだ。昨日、白口峠方面からも気になってはいたが、唯一濃いピンクが見られたのは銚立峠付近で、平治岳方面にそれらしき色は見当たらなかった。小屋のスタッフに聞いてみると、今最高潮の場所はやはり銚立峠周辺で、往復1時間ほどだという。急遽予定を変更して、まずは空身で現場を往復することに。案の定そこは期待通りこの日周辺唯一最大のピンクの群落で埋まっていた、まずは一安心。もう一つの群落は平治岳への分岐周辺で見られた。この日は大船山周遊で時間がかかるので、平治岳はカットの予定だったが、ピンク群落が観れる平治岳の途中まで往復して、この日2か所のミヤマキリシマ満開群落に皆大満足、今回一番の目的は達成された。

結局今回の九重山では、満開のミヤマキリシマ、ピンクの絨毯の中を歩くことはできなかったが、この日の九重連山でベストスポットを2か所歩くことができたことは最高の幸運であったと考えたいものだ。九重山群と坊がつるを見晴らす大船山頂上でゆったりとランチタイム、坊がつるに下り、雨ヶ池を越えて長者原に着くと、牧ノ戸峠から運ばれてきた我が愛車ノア号が待っていた。長年付き合いの九重観光ホテルに感謝感謝。この日は設備の整った温泉ホテルで2日間の山旅の疲れを癒す。

●由布岳正面コース～東コース、鶴見岳西口コース

次の目的は由布岳。これも長年正面コースからの往復が決まりコースでこれが誰もが歩く一般コースとなっている。しかし整備が行き届いたこのコースは歩き易いが、シグザグの登り下りはあまりに単調で長い。今回は健脚グループということで、由布岳東峰からお鉢を巡り、東登山口へ下る新コースを考えた。そのためツアーの前に中津のホテルに2連泊して、東コースから東峰を往復、昨年の地震の影響や鎖場難コースの様子を下見で歩く。本番では正面口から登り、マタエ～西峰を往復、東峰から東コースを下るというプランだ。車の回送はできないので、東口への分岐から正面コースに戻るのが普通のプランだが、東口へそのまま下るより30分以上時間がかかるだろう。そこでいつもの平野流車回送術?により、皆は楽な東口へ、私が正面口まで頑張って車を東口まで回すという方法を考えて。そのためには東口分岐まで皆と一緒に下っては時間のロスが多すぎる。上部の鎖場と一緒に下ってから、どの辺から自分が先に下れるかというのも、下見で重要なポイントだ。

今回の下見では、東登山口に車を置いて東峰まで往復した。東コースは正面コースより遥かに歩く人が少なく、登山道も過剰整備されることなく、殆ど昔のままの自然道、豊かな自然林の素晴らしい山道だった。お鉢下の鎖場は、一般コース西岳の鎖場よりは急で手強いが、注意して下れば大丈夫、変化に富んでかなり面白い。ということで、2か所の鎖場を終えたあたりからは普通の山道となるので、その辺から自分が先行して分岐から正面口に下れば、本体が東口に着くまでに何とか車を回せるだろうと下見完了。

今回も下見が功を奏し、順調に東峰頂上でランチタイム、私は鎖場を終えたところから先行して正面口を目指した。しかし下見の時に分岐から正面口へは歩く時間がなかったので、どれほど時間がかかるかは予想できなかった。しかし実際に歩いてみると単調な下りではなく、沢を何本も乗越し、巻道の登りもある厄介なコースで、まだ膝の痛みを抱えていた私にとって想定をはるかに上回る時間と体力消費でヘトヘト状態。結局、皆が歩いた分岐から東口へは緩やかな下り20分のところ、正面口へのこのコースはその3倍以上、1時間もかかってしまった。おまけに今回のメンバーは超健脚グループだったので、皆が車が来るまで30分私も待ったという。それでも最後に正面口までの嫌なコースで疲れ果てるより遥かに楽なことは間違いないので、結果オーライというところだろう。この日は、今回の最高級ホテル・ゆふいん山水間の露天風呂と懐石料理で疲れを癒し、3日間の中身の濃い充実した山旅に皆大満足、残る最終日の鶴見岳はおまけといったところだ。

九州の山旅を無事終了、5月30日夕方大分空港にグループを送った後、私は国東半島を北上、半島最北部の町・国見の宿に1泊、翌朝一番のストーンダフェリーで徳山港に向かった。4:20発のフェリーは少々きついが大峰山ツアーの前日に大和権原まで入り周辺の下見をするためには次の便で行くよりも5時間もゆとりを持てる。頑張ってホテルを3:00発、ゆとりを持ってフェリーに間に合った。

■大峰山・弥山と八経ヶ岳、稲村が岳、大台ヶ原2日発 3日間

今年からの新コース・大峰山の下見は去年、行者環トンネル西口から弥山のみ歩いたが、残りの稲村が岳と大台ヶ原は今回の山旅行脚の初めに済ませて作戦はほぼ万全だった。

弥山、八経ヶ岳のコースと大台ヶ原は誰でもほぼ同じコースを歩くが、稲村が岳は歩き方、コースの巡り方でその価値は大きな差が生じる。私はガイドブックよりもネットで最新情報を調べ、コースを考えた。一般的には洞川温泉から車で母公堂まで車で入り、法力峠経由で稲村小屋へ、そこから稲村が岳を往復するというのが一番楽で無難なコースだが、一見長く退屈そうな往復は魅力に欠ける。一方、車道をさらに奥の清浄大橋から始まるレンゲ谷コースは、沢と自然林が美しいようで、このほうがはるかに魅力的だ。ネットの情報によるとこの谷の登りや上部に一部危険箇所や不明瞭な部分ありとなっているので、この部分の下見が第一の目的だ。私は清浄大橋からさらに奥の林道終点まで車を乗り入れ、そこから歩き始めた。ここまで車で入れれば、無用の車道歩き30分はカットできる。山上辻・稲村小屋からの下りは法力峠コースで母公堂へ下るとするのが最も変化に富み、時間・体力的にもゆとりが持てるベスト周遊コースとなるだろう。

期待通り、レンゲ谷の沢と自然林は素晴らしかった。5月半ばなので上部の新緑やシロヤシオはまだこれからといったところだが、本番の6月3日上旬ころには絶好調となっていることだろう。心配していた不明瞭な箇所にはロープが張られ、崩れた箇所はしっかりと補修され、レンゲ辻まで全く問題なく歩けた。ここから山上辻まではのんびりとした尾根歩きとなり、前半の見通しはほぼ立った。

後半のハイライトは稲村が岳だが、それよりも気になる所は、頂上から北尾根の藪ルートを辿ったところにある「宝剣」が祀られているという聖地?だ。私はこの「宝剣」探索を一番の目的とした。

ところでこの稲村が岳にはく山上辻から頂上にかけては食事禁止、食事は稲村小屋前の広場で取るように>という奇妙な規則?がある。山の上でのランチタイムは一番気持ちのいいところだというのは誰しも考えることで、平野ツアーではかなり重要な要素のひとつでもある。小屋周辺にはベンチテーブルもいくつかあり、皆ここで食事を取っているが、ここは丁度風の通り道となっていて寒いことこの上ない。ゆっくりと食事を楽しむところではない。何故こんなバカげた規則を作ったのか。<頂上で食事をすると周辺で用足しをする人が多いので、自然環境保全のため>などという名目のようだが、日本中の山でこんな話は聞いたことがない。たとえどんなに神聖な山の頂上でも、山神様はそこで食事をするななどというはずはない。私は小家主の陰湿かつ身勝手な根性を感じずにはいられない。

<用足しは小屋の有料トイレで百円払って済ませるように>という営利目的に違いない。

私は寒々とした小屋広場を後に、稲村が岳を目指した。頂上には広々とした展望テラスが建てられ、大峰連山を見晴らす展望も素晴らしく、日当たりの良いこの快適なテラスで皆食事やコーヒー・タイムのひと時を過ごしたいと思うはずだ。そんな頂上を後に、私は北尾根に続くそれらしきフミアトを見つけ、宝剣目指して辿って行った。確かに3か所ほど間違いそうなフミアトがあったが、ブッシュワーク大好きな平野ガイドにとっては全く難なく15分ほどで宝剣の場所に辿り着いた。祀られていた宝剣は、神代の昔の本物の宝剣ではなく、歴史時代にある人が奉納したというさほど価値のある代物ではない。しかし一般の人では立ち入り難いこの場所へのルートを見つけたこと、そして何よりもこの日当たりの良い広場が気に入った。誰も来ないこの場所なら、皆でゆっくりとランチタイムを楽しめる。帰りのルートも頂上に登り返すことなく、5分ほどの下りでもと来た登山道に合流できた。これで稲村が岳の大穴場・宝剣への秘密のルートが完成、平野ガイドならではのコースがまた一つ増えたというものだ。

こうして今回のメインコース・稲村が岳のベストコースはほぼ完成した。あとは山上辻に戻り、車の置いてある登山口に戻る予定だった。しかし思ったよりも長くアップダウンのある尾根道と、レンゲ谷の急降下、そして、まだ完治していない膝のことも考えて、本番で歩く法力峠から母公堂への一般コースを下ることにした。この部分は一般コースとはいえ、やはり一度歩いてみるにこしたことはない。それにどの辺から自分が先行して車を取りに行って皆を母公堂でピックアップできるものか、確認のためにも歩いてみるのは正解だ。母公堂から車までは登りの車道歩きになるが、来た道を往復するよりは楽だろう（膝にとっても）と判断したからだ。

下りの一般道は、レンゲ谷のコースよりもはるかに楽で危険箇所もなく、歩きやすかったが結構長い。痛み始めたヒザには徐々に負担が増していった。ようやく母公堂への分岐を下り、もういい加減にウンザリした頃、突如後ろからトラン風の若者が追いついてきた。何と彼は朝、母公堂の駐車場で出会い話をした登山者であった。本来なら走って下れるはずの私も、とうていそのペースにはついていけず、若者が走り去った後から最後の力を振り絞って下って行った。

やっとのことで母公堂に辿り着くと、その若者がまだそこにいて、コーヒーを飲んでいて（ここに駐車すると下山後にコーヒーをサービスしてもらえる）。私が「これから車道終点まで車を取りに行くのだ」というと、何と彼は「車で送らしましょうか」という。普通なら、山から下りてわざわざ自分が戻るのと反対方向に他人を送ってくれる親切な人など、まずいるわけがない。これはとんでもなく清い心の持ち主に違いない。お堂の主人が言うには、「母公堂(ははこ)」とは役行者とその母を祀ったお堂ということで、これも役行者様のありがたいお引き合わせに違いない。

私はこの善良なる若者の行為に甘えて、歩かずして車に戻れるという幸運に恵まれたのだ。母公堂から林道終点までは思っていたよりも遠く、車では10分ほどであったが、この登りの林道歩きは疲れ果てた私にとってはおそらく1時間もかかったことだろう。それで今日は疲労困憊、宿に着くのも遅くなっただろうし、明日からの山旅に支障をきたしたことだろう。こうして私の大峰山下見は大成功、大収穫、最良の形で終了した。

…… だいぶ長くなってしまったので、この続きはいずれまた ……

10月以降の山旅・一部変更、料金改正、実施・残席状況のご案内

グループの希望により、一部出発日、日程に変更があります。以下、実施・残席状況のご案内です。料金も一部改正（少し安く）。

まだ未定のツアーは予約が入ってからホテル手配を開始するので、お早めにご検討ください。コース、日程、出発日の調整やグループでの貸し切りも可能ですので、平野ガイドまで何なりとご連絡ください。

9月の山旅は<7月のお便り>参照、締め切りは8月末です。

◆10月の山旅・世界一美しい日本の紅葉、錦織り成す東北のブナ原生林

■那須三本槍岳と二岐山、会津の秘湯・二岐温泉

那須連峰最高峰と会津・展望の山、静かな山歩き ★健脚度 3

①10月4日(水) ②10月6日(金) 発 2日間

●現地参加料金:¥39,000 (新白河駅集合・解散)

☞那須連山北部の三本槍岳を、大峠林道最奥部まで車で乗り入れ、無用の林道歩きをカット、効率的に周遊します。新甲子トンネルの開通で新白河からのアクセスが便利になったため、一日目に二岐山を往復、登山口の二岐温泉に泊まる嬉しいプランが実現しました。*日程は<7月のお便り>参照

■栗駒古道と千年クロベ、栗駒・秣岳

秋の栗駒山と役の行者ゆかりの古道を歩く、日本一のクロベ巨樹

●10月3日(火) 発 3日間 ★健脚度: 3

●現地参加料金:¥59,000 (一関駅集合、解散)

☞栗駒山周辺随一のブナ原生林の中を辿る修験の山道・栗駒古道。その奥にひっそりとたたずむ日本最大級のクロベの巨樹(幹周9.5m)を探訪。秋の山旅では、栗駒山の天馬尾根末端部・秣岳から紅葉の美しい上部温原まで往復します。*日程は<7月のお便り>参照

■秋の南八甲田・赤沼と難岳、八幡平・毛せん峠

八甲田周辺随一のブナ原生林・赤沼の紅葉時期に ★健脚度 3

●10月8日(日) 発 3日間 ●現地参加料金:¥65,000 (新青森駅集合・解散)

⇒静寂の南八甲田・赤沼を美しい紅葉の時期に訪れます。平野ガイドが見つけた巨木の森ルートで周遊、麓の森のブナ原生林、ブナ森の自然道が素晴らしい八甲田連峰東端の難岳など、大混雑の北八甲田では味わえない静かな山旅を満喫できます。八幡平周辺で一番素晴らしいブナ原生林の紅葉に出会える後生掛温泉から毛せん峠へのコースをプラスした紅葉特選山旅です。

*2名から実施、定員6名。*日程は<7月のお便り>参照

■白神山地と岩木山・巨木の森逍遥、世界遺産大周遊の山旅

白神岳と高倉森、藤里駒ヶ岳・岳岱ブナ原生林、岩木山巨木の森

●10月11日(水) 発 4日間 ★健脚度: 2-3

●現地参加料金:¥76,000 (新青森集合・大館能代空港解散)

☞白神山地の中でもブナ原生林の素晴らしさを最も味わえる津軽峠から高倉森～巨木の径を歩き、十二湖の宿をベースに白神岳を往復。秋田白神山地の名峰・藤里駒ヶ岳と岳岱ブナ原生林もプラス、青森、秋田の白神山地の見どころを最良のコースで巡る秋の白神山地スペシャル4日間です。新青森(9:50着)＝岩木山神社＝岩木山スカイライン＝巨木の森(ブナ原生林逍遥(約1時間)＝相馬村【星と森のロマンピア泊】②＝西目屋村＝津軽峠…△高倉森…マザーツリー…巨木の径…遊々の森(約3時間30分)＝白神林道＝十二湖【アオーネ白神十二湖・海彦山彦館泊】③＝白神岳登山口…二股分岐＝マテ山分岐…△白神岳(往復約8時間30分)＝藤里【ゆとりあ藤里泊】④＝黒石沢登山口…藤駒温泉…四合目…△藤里駒ヶ岳…新道…登山口＝岳岱入口(ブナ原生林周遊約1時間30分)＝釣瓶落峠＝ホテル(入浴休憩)＝大館能代空港(18:05発)

▶現在4名グループで実施決定。残席2あり。

■白神山地(秋田)と森吉ノロ川ブナ原生林・ブナ三味の山旅

藤里駒ヶ岳・岳岱ブナ原生林、森吉山縦断とノロ川ブナ原生林

●10月15日(日) 発 3日間 ★健脚度: 3

●現地参加料金:¥66,000 (大館能代空港集合・解散)

☞秋田白神山地と森吉山のブナ原生林の魅力に効率的に味わえる秋の山旅スペシャル・コース。白神山地は藤里をベースに、岳岱、藤里駒ヶ岳、紅葉絶景の釣瓶落峠を巡ります。森吉山は Gondola 利用で山麓高原まで縦走するベストコースで歩き、森吉山随一のノロ川ブナ原生林を周遊、錦絵のような紅葉絶景を堪能します。

①大館能代空港(10:05着)＝森吉野生鳥獣センター…△ノロ川ブナ原生林(周遊約3時間)＝森吉山荘【泊】②＝阿仁 Gondola 駅(Gondola)上駅…石森…△森吉山…山人平…ヒバクラ分岐…森吉山山麓高原(約4時間40分)＝藤里【ゆとりあ藤里泊】③＝黒石沢登山口…藤駒温泉…四合目…△藤里駒ヶ岳…新道…登山口＝釣瓶落峠＝大館能代空港(18:05発)

▶現在4名グループで実施決定。残席2あり。

■秋の裏磐梯・雄国山とデコ平ブナ原生林、中津川渓谷
 裏磐梯五色沼周辺の原生林と渓谷・紅葉の山旅
 ●10月19日(木) 2日間 ★健脚度：3
 ●現地参加料金：¥43,000 (会津若松駅集合、解散)
 ⇒秋の裏磐梯の沼と渓谷、ブナ原生林を巡る秋の山旅。裏磐梯で一番のブナ原生林・デコ平と雄国山のブナ林を紅葉の時期に訪れます。
 *現在4名グループで実施決定。残席2あり。*日程は<7月のお便り>参照

■玉原高原ブナ林・鹿又山と尼ガ秀山、玉原湿原周遊
 関東で一番近いブナ林、新緑の山旅2日間 バストコースで
 ●10月22日(日) 2日間 ★健脚度：3
 ●現地参加料金：¥39,000 (上越新幹線上毛高原駅集合・解散)
 ⇒首都圏から一番近いブナ林・玉原高原を、高原の宿水芭蕉に1泊してゆとりを持って歩きます。無用の林道歩きを最低限に抑え、平野ガイドならではのコース巡りで、玉原湿原を取り巻く2つの山とブナ林の見どころを、2日間に分けてじっくりと歩きます。*日程は<7月のお便り>参照

■鍋倉山・巨木の森と天水山ブナの森、カヤノ平ブナ原生林
 信越トレイルのブナ林ベストスポットを巡る、紅葉の山旅スペシャル
 ●10月24日(火) 3日間 ★健脚度：3
 ●現地参加料金：¥58,000 (新幹線越後湯沢駅集合、飯山駅解散)
 ⇒戸狩温泉に2連泊、鍋倉山を①口から巨木の谷へ頂上から関田峠、茶屋池の大ブナコース、ブナ原生林が美しい天水山など、信越トレイルのベストスポットをじっくりとゆとりを持って歩きます。もう一つのブナ原生林の穴場・カヤノ平もプラスしました。*日程は<7月のお便り>参照

■秋の大峰山・弥山と稲村ガ岳、三輪山と明日香古代遺跡
 修験の霊峰を日帰りで、大峰山村の温泉・洞川温泉 ★健脚度：3
 ●10月27日(金) 3日間 ●現地参加料金：¥59,000 (櫃原神宮駅集合解散)
 ⇒6月新緑の山旅で訪れた大峰山を秋の紅葉の季節に歩きます。大好評の洞川温泉・花屋徳兵衛に2連泊してゆとりをもって2つの山を日帰りで歩きます。稲村ガ岳はレンゲ谷林道終点まで車で乗り入れ、自然林の美しいレンゲ谷を登り、母公堂へと下るベストコースが完成、ゆとりを持って歩けます。稲村ガ岳北尾根ルートを通り、宝剣前の広場でランチタイム、弥山は行者還トンネル西口から最短コースで往復、1日目は日本の神の山の中心といわれる三輪山と明日香村の古代遺跡を巡ります。
 ①大和八木駅(10:38着)＝△三輪山(奥宮参拝往復約2時間)＝明日香石舞台＝洞川温泉【花屋徳兵衛2連泊】②＝清浄大橋林道終点登山口…蓮華辻…山上辻・稲村小屋…△稲村ガ岳…宝剣…山上辻…法力峠…母公堂(約6時間)＝洞川温泉【泊】③＝行者還トンネル西口…奥駈道出合…聖宝ノ宿跡…弥山小屋…△弥山(約5時間40分)＝櫃原神宮前駅(17:55発)

■秋の御在所岳と東雨乞岳～七人山・ブナ自然林周遊
 御在所岳表道と三人山～七人山のルート・紅葉のブナ林逍遥
 10月30日(月) 2日間 ★健脚度：3
 ●現地参加料金：¥38,000 (米原駅集合・湯の山駅解散)
 ⇒新緑の山旅で訪れた三人山から七人山への自然林新ルートを、紅葉の季節に訪れます。御在所岳は一番標高が高く楽な表道から登り、静かな南峰でランチタイム、下山は大黒岩から絶景を眺め、一ノ谷新道で下ります。
 *日程は<7月のお便り>参照

《今年の1泊2日忘年山行は弥彦山と能登、伊豆をプラス》

■秋の能登半島、鉢伏山のブナ林と石動山、気田大社
 能登唯一のブナ原生林と石動山神聖の森、気多大社
 ●11月2日(木) 2日間 ★健脚度：2～3
 ●現地参加料金：¥39,000 (北陸新幹線金沢駅集合、解散)
 ⇒能登半島に残された唯一のブナ原生林・鉢伏山と修験の山・石動山、能登一の宮・気多大社を巡る能登秋の山旅スペシャルです。大好評の和倉温泉のと楽に泊まり、2日間奥能登大周遊の山旅とドライブを楽しみます。
 ①金沢駅(10:00頃集合)＝気田大社(本殿参拝約40分)＝石動山資料館…△石動山(周遊約1時間20分)＝七尾城跡＝和倉温泉【日本の宿のと楽泊】②＝輪島朝市(見学約1時間)＝△鉢伏山ブナ原生林(周遊約2時間)＝祿剛崎＝見附島＝金沢駅(夕方)

■秋の弥彦山と国上山、岩室温泉 2日間
 ●11月5日(日) 2日間 ★健脚度：2～3
 ●現地参加料金：¥38,000 (上越新幹線燕三条駅集合、解散)
 ⇒4月のユキワリソウの頃に訪れた弥彦山と国上山を、紅葉の季節に再訪。岩室温泉ゆもとやに泊まり、ゆったりコースで秋の山旅を満喫します。
 ①燕三条駅(9:54着)＝国上寺駐車場…△国上山…蛇崩…駐車場(約2時間30分)＝天神山城址＝岩室温泉【ゆもとや泊】②＝西生寺…能登見平…△弥彦山…九合目駐車場(約2時間30分)＝寺泊(市場で買い物)＝三条金物アウトレット＝燕三条駅(17:50発)

■伊豆・皮子平のブナ原生林と天城越え
 ①11月8日(水) ②11月10日(金) 2日間 ★健脚度：2～3
 ●現地参加料金：¥29,000 (三島駅集合・解散)
 伊豆天城山の西麓・皮子平は天城随一のブナ原生林として知られていますが、そこに至る往復14キロの筏場林道歩きが難点でツアーにはできませんでした。今回伊豆森林管理署から林道通行許可をもらえることになり、理想的な伊豆・ブナの山旅が実現しました。
 ①三島駅(8:19着)＝修善寺＝筏場林道(7*o)＝上井屋歩道入口…西皮子平…東皮子平…天城一のブナ大木…戸塚峠(往復約3時間)＝筏場林道＝稲取温泉【バスカードいなとり泊】②＝河津＝天城峠＝天城の太郎杉…滑沢渓谷…踊り子歩道…道の駅天城越え＝旧天城トンネル＝三島駅

■秋の大マテイ山と雁ヶ腹摺山 2日間 ★健脚度 3
 ①11月12日(日) ②11月14日(火) 2日間 ★健脚度：2～3
 ●現地参加料金：¥27,000 (大月駅集合・解散)
 ⇒奥多摩周遊で最も自然林が残された大マテイ山を紅葉の季節に。腐葉土と落葉の山道は足に優しく、何度でも歩きたくなる大穴場スポットです。まだの人は是非一度歩いてみてください、2度目以上の方も毎年一度は歩く価値あります。雁ヶ腹摺山は大月から林道を峠まで乗り入れ、最短コースで往復、頂上から五百円札写真の富士山を眺めながらランチタイムを。
 ①大月駅(9:00頃集合)＝松姫峠…△鶴寝山…△大マテイ山…大ダワ…大トチの木…松姫峠(約4時間15分)＝小菅村【廣瀬屋旅館泊】③＝大月＝大峠…△雁ヶ腹摺山…大峠(往復約2時間)＝大月(16:00頃着)
 *①11月11日(土) 発に変更も可能です。

★ハッカ油・新商品入荷しました★
 …携帯便利なスリム型、詰め替えも簡単、割安です…

ブヨや蚊、ダニ、ヒルにも有効なハッカ油は日本の山旅に必需品です。リピーターの皆さんに長らく愛用されていた北見日本農産の製品は販売中止となったため、しばらく在庫切れの状態でした。今回、北海道最大のハッカ製品製造会社・北見ハッカ通商から仕入れが可能となり、



ハッカ油を再び皆さんに提供することができるようになりました。
 ●ハッカ油スプレー(10ml) ¥900
 ●ハッカ油詰め替え(12ml x 2本入り) ¥1,000
 …スプレーの頭を差し替えるだけで便利です。
 9月以降の山旅で現地販売いたします。お急ぎの方は通信販売も可能です。
 ●送料：1セット¥140(¥5,000以上は無料)
 *ハッカ油は消費期限はありませんので(密封状態で)、まとめ買いも大丈夫です。

 …それでは皆さん、これから日本の山旅、ニュージーランド大自然ウォークで平野ガイドと共に山と森を歩き、大自然の気を一杯吸収して元気もらい、充実した山旅人生を過ごしましょう。…

2017年8月3日 コロミコ・トレック / 平野 洋一

■コロミコ・トレック連絡先：☎/FAX: 045-481-0571
 平野携帯：080-5665-9186 ✉koromiko2@pop07.odn.ne.jp